2022.1

vol.13

特集
デイサービスセンター加寿苑
ケアプランセンター加寿苑
淀川区西部地域包括支援センター

クローズアップ

ゆうあい

誰もが自分らしく
安心して暮らせる
温もりのある地域社会を目指して

ui

社会福祉法人加島友愛会

http://www.kashima-yuai.or.jp

新年のごあいさつ

2022年は、昨年の30周年記念誌刊行の際に再確認した二つのキーワードを追求し、社会福祉法人の老舗を目指す一年のスタートにします。

社会福祉法人加島友愛会
理事長
平田 純博

新年あけましておめでとうございます。皆さまには、本年が穏やかで幸多い一年でありますように祈念申し上げます。

2021年4月25日から3回目の緊急事態宣言が出された中、私どもの特別養護老人ホーム加寿苑において、4月中旬過ぎから職員や利用者の方々がコロナに感染しました。実際にコロナが発生した事態は予想外のことが多く、準備していたコロナ対応マニュアルでは現場の対応が大変困難な事態に見舞われました。コロナに忙殺される大阪市保健所からの適切な指導を十分に受けがたい非常事態下でしたが、特養加寿苑職員の献身的な対応により、5月下旬には新たな感染者が発生しなくなり、普段の落ち着いた施設の運営ができるようになりました。

昨年は、法人設立30周年を迎えた節目の年でしたので、1991年3月からの30年の歩みを振り返るとともに、これからの10年～20年を見据えた第2期福祉レインボープラン10年計画の議論などを各施設・各職員間で行い、それらをまとめた加島友愛会30周年記念誌を刊行することにより、今後の加島友愛会にとって、二つの重要なキーワードの再確認を行いました。

一つ目は、法人設立時の先輩たちが「加島を福祉の町にしたい」と思った精神を受け継ぎ、今日的な時代・社会状況に見合った第2期福祉レインボープラン作りを行い、「誰もが自分らしく安心して暮らせる温もりのある地域社会」を目指し続けるスタートの一年にします。

二つ目は、50周年を目指すにあたって、30周年記念誌の刊行でも明らかになった「人材育成」の重要性です。法人が行う事業運営にあたっては、何よりも職員の力が必要と考え、新しい一年は、職員代表で組織する「採用戦略委員会」「法人研修委員会」の積極的な活用を図り、法人の礎となる人材育成を真摯に取り組んでいく決意です。

皆さまのご多幸を祈念申し上げ、重ねて皆さまのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げ新年のごあいさつといたします。

2021年6月
介護付有料老人ホーム
「リベルテ加島」
リニューアルオープン

加島のあかりちゃん

クローズアップ
座談会・採用戦略委員会

オンラインとリアルで法人の魅力を伝える 2021年新卒採用を振り返って

酒井 大介（加島友愛会専務理事）
胡麻 陽子（かしま障害者センター支援部長）
杉本 昌志（アンダンテ加島支援部長）

酒井　採用戦略委員会発足の背景は2017年、2018年の新卒採用者がゼロだったことです。まずは合同就職説明会（就職フェア）の取り組みを見直すことから始め、若手職員の参画や採用パンフレットの作成など新たな取り組みの結果、2019年2名、2020年6名、2021年6名、そして2022年4月の入職予定者も現在6名と徐々に成果が出て、感触もつかめてきました。

胡麻　ただ他の法人と比較すると、まだまだ課題があると思っています。説明会の開始早々から学生が集まっているブースと比べて私たちに何が足りないのか。そういう問題意識で人材確保のセミナーも受けています。学生さんが知りたい情報は何なのか、どう伝えていくのか、ツールをどう駆使するか、そのあたりの戦略が重要になってきます。そうした中から、まずは足を運んでもらい、若い職員とざっくばらんに話ができる「おしごと cafe（カフェ）」なども始まりました。

杉本　採用広報が不十分で知名度が低かったのですが、学校との繋がりも含め、どのように魅力を発信していくのか考えながらここ2年くらいやってきました。求めている人材に関しても、もう少し絞ってということで三つのキーワードを押し出そうということになり、発信していくことになりました。

胡麻　相手の立場に立って考えられる人、明るくポジティブな人、素直で成長意欲のある人…この三つでしたね。

酒井　そうした取り組みを進めるなかで成果が出てきたけれどコロナで一変しましたね。状況の変化にうまく対応できていると思いますか?

杉本　それまで対面でやっていたことがオンラインに切り替わり、慣れないことばかりで、最初はつまずきましたね。施設見学会もZoom（ズーム）になり、学生さんに見てもらえるように動画を制作したり、試行錯誤しながら何とかやってきました。オンラインでの対応も2年目になり慣れてきたと思います。これからますますオンラインが主流になる中で、Zoom（ズーム）などを活用しつつも対面での交流も大事にしたいですし、それぞれのメリットを活かせるようにしたいです。

胡麻　インターンシップや学生アルバイトの他にも実習生への声掛けなど、さまざまなチャンネルで採用に繋げるようにしています。

酒井　現在、正規職員の数で見ると40代74名、30代43名、20代26名です。これからの介護の現場を考えると、まだまだ若手の職員が必要ですし、男性職員ももっと増えてほしいです。うちは障害部門・高齢部門と事業も多いので、今後は人事交流や人事異動などがうまくできるようになれば、それも魅力に変えることができると思います。コロナ収束後もオンラインでの採用活動が当たり前になりつつありますから、そこは押さえた上で、次年度の採用でも目標をクリアできるよう頑張りましょう。

左から杉本部長、胡麻部長

クローズアップ
デイサービスセンター加寿苑
ケアプランセンター加寿苑
淀川区西部地域包括支援センター

地域の高齢者が在宅で安心して生活できるように
チームとして連携した支援を大切に！

加寿苑の在宅部門のデイサービスと、相談部門のケアプランセンター、淀川区西部地域包括支援センターを紹介します。
在宅部門と相談部門では今回紹介できなかったホームヘルプも含めて、お互いに連携を取りながら、地域の高齢者が在宅で安心、安全に暮らせるように支援をしています。

加寿苑の事業

特養部門
- ○特別養護老人ホーム
- ○ショートステイ

在宅部門
- ●通所介護（デイサービス）
- ○訪問介護（ホームヘルプ）

相談部門
- ●居宅介護支援事業（ケアプランセンター）
- ●淀川区西部地域包括支援センター

加島のひかるくん

ケアプランセンター加寿苑

介護保険のサービスを利用する方などからの相談に応じ、利用者の希望や心身の状態等を考慮して、適切なケアプランを作成し、自宅で安心して生活できるよう、市町村やサービス提供事業者などとの連絡調整をおこなっています。

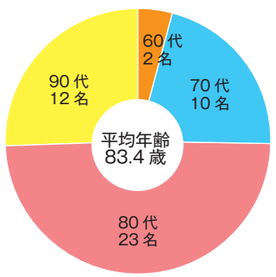
淀川区西部地域包括支援センター

「介護予防ケアマネジメント」「包括的・継続的ケアマネジメント」「総合相談」「権利擁護」の４つを業務の柱とし、さまざまな機関や関係者と連携して、地域に住む高齢者に加え、その支援や介護に携わる方々を支える役割を担っています。

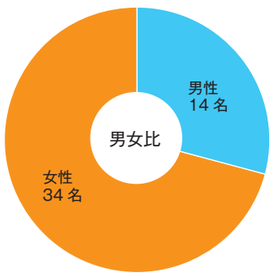
デイサービスセンター加寿苑

介護認定を受けて在宅で生活を過ごされている方に、閉じこもりの防止、孤独の解消や、ストレスの軽減、精神面での維持向上を目的として、送迎付きで食事や入浴、レクリエーションなどのサービスを提供しています。毎日介護を行っている家族の負担軽減も担っています。

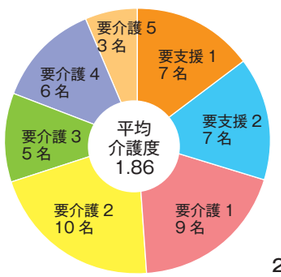
利用者平均年齢



利用者男女比



利用者介護度



2021年10月現在

最期まで家で過ごしてもらいたい
一人ひとりの価値観を大切にケアプラン
職場を超えた連携でフォロー

命に関わるケースも
迷ったときはすぐ相談

――福祉の仕事を選んだ動機は?

河村　人とコミュニケーションをとるのが好きだったのですが、専門学校を選ぶときに「ずっと続けられる仕事は何か」と考え、福祉を選択しました。

三橋　親の介護に役立つようにとヘルパー２級（介護職員初任者研修）の資格を取ったのが20年ほど前。その後、子育ての傍らホームヘルパーをし、性格的に向いているかなと思い６年前にケアマネージャーの資格を取りました。

樋口　阪神淡路大震災で被災したことで福祉職に関心を持ち、2000年にヘルパー２級の資格を取り介護職に就きました。前職の医療法人ではさまざまな部署を経験し資格も取得し、「包括」の仕事に興味があったのでこちらに転職しました。

――日々どんなお仕事をされているのですか?

河村　送迎、入浴介助、レクリエーション、利用者やご家族の相談相手、ケアマネからの相談事、そして事務仕事も、何でも屋ですね。ただ仕事内容は多岐にわたりますが、基本的には同じ仕事だと思っています。

三橋　ケアプランを作りますが、私一人で作るというよりも、まずはご本人から、どんな生活をしたいのかしっかりお聞きして、各人の価値観に基づいたプランを立てます。介護保険の範囲内だけでなく、地域でのさまざまな取り組み、例えば「百歳体操」などを取り入れて、プランをよりよくするよう心がけています。

樋口　主な仕事は相談業務ですが私も何でも屋さんです。ご本人やご家族、近所の方、区役所、警察、民生委員などの情報をもとに自宅を訪問したり、必要な機関に繋いでいったりもします。高齢者が対象なので、家で暮らし続けたいけれども困難な方もいらっしゃいます。例えば同じものを買ってきて冷蔵庫をあふれさせたり、片付けの手順がわからなくなってゴミだらけになったりと

Column1　ケアワーカー　中谷弘道

苦手な人からの「ありがとう」が転機に

小さいころ、よく母親の仕事場に付いていくことがあった。清掃の職場で年配の労働者も多く、行くたびに可愛がられた。

「なので、お年寄りに関わる仕事に抵抗はまったくありませんでした」

将来、母親の面倒を見ることになるかもしれないとも考え福祉の仕事を選んだという。専門学校を出て特別養護老人ホームに就職したが２年余で退職。その後６年間タクシーに乗った。選んだ職業は人に接する仕事ばかりだが、実は…「人と関わる事が苦手な方で、どちらかというと裏方としてテキパキやる方が性に合っていた」と言う。

景気が悪くなりタクシーの売上が減り、再び介護職に復帰。排泄、入浴、食事の介助など、日々の仕事を嫌だと思うことはないものの、利用者とは距離を置き淡々と業務をこなしてきた。転機となったのはある利用者との衝突だった。

「担当した方とウマが合わず衝突したことがあったのですが、向き合って関わるようになって、初めてその人が笑顔で『ありがとう』と言ってくれて…」

その時から今のように利用者と近い距離で接するようになった。

「たまに踏み込みすぎて失敗もしますけど」

キャッチボールできているつもりでも精神状態を読み違え、相手の態度が急に変わることもある。表面上の言葉だけを鵜呑みにすると間違うので、表情や動き、目線などのサインを見逃さないようにしている。

仕事の喜びは、顔を見ただけでニコッと笑ってくれたり、「居てたん」「声聴いただけで元気が出るわ」など言われた時に感じる。

「そう言われると単純に嬉しくなって、それで調子に乗ってしまうところもありますが…」と自戒を込めた。

中谷弘道
（なかたにひろみち）
デイサービスセンター加寿苑・ケアワーカー。2002年９月入職。趣味はスポーツ観戦。

か…。病院で亡くなるというのは本意ではないでしょうから、なるべく最期まで家で過ごすための手助けをしてあげたいですね。そのために、成年後見制度に繋げたりとか、社会福祉協議会の日常生活自立支援事業を勧めたりとか…。高齢で体温調整ができにくくなっていて、夏でも冬の格好をして水分も摂らず、脱水症状で救急搬送されるなど、命に関わるケースにも遭遇します。

――異なる部署間の連携や同僚とのコミュニケーションはどうですか?

河村　地域に住んでいる高齢者へサービスを提供する複合施設なので、その人がその人らしく生活するために他の部署と連携をとるのはとても大切です。職場が同じ建物の中にあるので、下の階に降りていって、「迎えに行ったら家にいないんですけどどうしましょう」とかは日常です。走れる人が走って安否確認してきたり、ケアマネが手一杯の時はうちが送迎ついでに訪問してみたりということもありますね。職員同士笑ってコミュニケーションできる雰囲気で、「誰それがこんなんで、こうしてあげればよかった」とか、日々の会話の中でケアを考えていくということが定着していると思います。

樋口　わからないところも素直に聞けるし、すごく風通しがよいです。私は主任介護支援専門員、上司は社会福祉士、そして看護師もいて…。制度のことがわかる人、医療のことがわかる人と相談してどう支援するか決められるところがよいです。

三橋　最初、私は自分がちゃんとして一人でいろいろ考えなければと思い、しんどくなったりしたのですが、今はチームでどういう方向を向いて行くか考えることが大事だと思うようになりました。今は迷ったらすぐに相談し、専門職の人の意見をもらうようにしています。

本人はどうしたいのか? ならば、こうしよう

――コロナ禍の影響はどうですか?

三橋　デイサービスに来られなくなったり、地域でおこなわれている取り組みが開催されなくなったり、外出も控えたりで、足の筋力が衰えてる方が多いです。人との接触も減って、認知機能の低下も心配しています。自宅への訪問もしにくいですし…。

河村　他の部署の職員とも、何かのついでに情報のやりとりをしていたのが、やりにくくなりましたね。デイサービスも、ちょっと来てはまた緊急事態宣言で休むとなって、一年のうちに数回しか来られていない人もいます。

――仕事の難しさ、喜びはどんなときに感じますか?

樋口　ご高齢の方のお宅へ初めて訪問すると、奥にどなたかいらっしゃる。ご本人は「いやあれは…」と言葉を濁しますが、実は引きこもりのお子さんだったり…、いわゆる「8050 問題」にも直面します。今まで表に出ていなかった問題を相談支援に繋げるのは簡単ではありませ

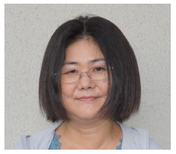
ん。ただ、さまざまな機関に繋がり制度にもうまく乗って困りごとが改善され喜んでいただくとやりがいを感じますね。

三橋　難しいのはそれぞれの価値観が違うところですね。どう見ても散らかっているなと思っても、その人にとっては手が届くところに必要なものがあることが大事で、そういうことを上手に汲み取ることが求められます。今まで暗い顔をされていた方の「デイサービスにいって誰かに会うのが楽しい」という声や、「(提案した)歩行器で外出できた」、「家族とご飯食べに行った」などの声を聴くと私も嬉しいです。

河村　私は「難しい」と考えるより、具体的に「どう対応しよう」と考えるタイプで、ご本人がどうしたいのか、ならばこうしようと考えるので、難しいと感じることはあまりありません。ケアマネが考えたサービスをきちんと提供できて利用者に変化が表れたときなどは嬉しくて、「こんなふうに変わったよ」「こんなことができるようになったよ」と、すぐに報告したくなります。

河村麻衣子
(かわむらまいこ)
デイサービスセンター加寿苑・主任・生活相談員。加寿苑オープニング時の2000 年 4 月入職。仕事は定時に終わりリフレッシュして次の日また頑張る。趣味は海外旅行。

三橋桂子
(みつはしけいこ)
ケアプランセンター加寿苑・介護支援専門員(ケアマネージャー)。前職の医療法人から 2020 年 8 月転職。趣味は登山、スキー、ダイビング。アウトドアでリフレッシュ。



樋口浩子
(ひぐちひろこ)
淀川区西部地域包括支援センター・相談員(主任介護支援専門員)。2020 年 6 月入職。リフレッシュ方法は夫と二人でドライブして美味しいものを食べること。

Column2　ケアマネージャー　中村誠

介護サービスを提供する側とされる側の狭間で

同居している父親が要介護状態になり、自身も介護に関わり始めてから福祉の仕事に興味を抱くようになった。父親の介護度が重くなるなかで、さらに介護の仕事を掘り下げたいと思い 5 年前にケアマネージャーの資格も取得した。

介護保険を利用するには、まず認定調査を受け、その結果により介護度と有効期間が決まる。ケアマネージャーはその期間(半年～ 4 年)のなかで、利用者と話し合いながら一人ひとりの状態に合った短期、長期のプランを作る。その話し合いが、長引くコロナ禍でやりにくくなっているが、振り回されながらも対応してきた。ただし、自身も親の介護に携わっているから、利用者や家族の気持ちはわかる方だと思う。

「同居されていたり近所に住んでおられるご家族のお気持ち、何を考え、何を求め、どうしたいのか…、仕事もあるし、プライベートも大事にしたいし…、そういったことが、自分と照らし合わせるとわかる部分もあります」

わかるけれども、全てを介護保険サービスで提供できるわけではない。求めていることとできることのギャップはあり、地域や家族の介護力といった部分が必要なことも理解してもらう。

介護サービスを提供する側の視線と提供される側の視線が自身の内側で交わる。そこからプランを見つめ直したり、修正したり…と仕事へフィードバックできるところが面白いと感じる。

ケアプラン作成の流れ

アセスメント
↓
原案作成
↓
サービス担当者会議
↓
原案の修正・再提案・同意
↓
ケアプランの交付
↓
モニタリング

中村誠
(なかむらまこと)
ケアプランセンター加寿苑・介護支援専門員(ケアマネージャー)。2020 年 4 月入職。趣味はボランティア。

Column3　センター長　山下修一

障害畑 14 年のベテランが見た高齢福祉の現場

入職以来 14 年、障害福祉部門に携わってきた。それが昨年 4 月から高齢福祉部門へ異動となった。

介護保険を一から学ぶところからのスタート。その 1 年生が介護保険のプロであるケアマネージャーの相談にも乗らなければならない。他の相談員や別の包括の職員に教えてもらいながら、乗り切ってきた。

障害福祉と高齢福祉はどう違うのか。「障害福祉は今抱えている問題だけでなく今後のことも見据えて考えようというところがあります。一方、高齢福祉は『今』が重要で、今困っている、今どうにかしてほしい、というところが大きいですね」

そして「お金」の問題も違う。障害福祉と比べ高齢福祉では自己負担金がネックになることも多い。困りごとを解決するために必要であっても、生活が苦しいと金銭面で躊躇し本人の了承を得られないこともある。

加えて命に関わる問題が多いというのも高齢福祉の特徴だ。いつもデイサービスに来るのに連絡が付かない。ドアが開かない。もし中で倒れていたら…。レスキューを呼んで開けてもらったが本人がいない。何事もなければないで壊した鍵はどうするか。一つ一つの判断が難しい。

一方で、携帯の使い方を教えてといった相談。連絡が取れないので見てきてという親族からの依頼…さまざまな仕事が舞い込む。

休日でも何かあれば対応しなければならない。高齢者虐待への対応は通報後 48 時間以内の初動が決まりだ。

スタッフの 1 日

9:00	出勤
9:05	職員朝礼 連絡事項と予定確認
9:30	関係各所連絡調整
10:00	利用者宅訪問 窓口・電話対応
12:00	休憩
13:00	地域の百歳体操参加
14:00	会議出席
15:00	利用者宅訪問 窓口・電話対応
17:00	職員終礼 今日の相談内容の情報共有 明日の予定確認

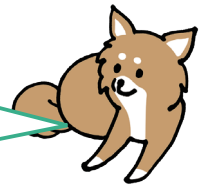
山下修一
(やましたしゅういち)
淀川区西部地域包括支援センターセンター長・支援課長。2006 年 4 月入職。趣味は国内旅行。

誰もが自分らしく安心して暮らせる温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人
加島友愛会

〒532-0031
大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6101-6601 FAX.06-6308-7299
e-mail 1991@kashima-yuai.or.jp
URL http://www.kashima-yuai.or.jp

ホームページは
こちら!



加島のあかりちゃん

❶かしま障害者センター

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6308-7206 FAX.06-6308-7299

むつみ（生活介護事業・就労継続支援事業 B 型）
e-mail mutsumi@kashima-yuai.or.jp

地域生活支援部（障害者グループホーム）
e-mail kashima-chiikiseikatu@kashima-yuai.or.jp
●加島苑●セッション●チューリップ●あさがお
●カナリヤ●うぐいす●ひのき●トレフル

Link
（就労移行・就労継続支援事業 B 型・自立訓練・就労定着支援）
TEL.06-6308-7210 FAX.06-6308-7220
e-mail link@kashima-yuai.or.jp

障害者就労支援事業部
TEL.06-4805-2485 FAX.06-6308-7220
e-mail kashima_jc@kashima-yuai.or.jp

“COCOLO” 相談支援センター
（地域活動支援センター（生活支援型）・特定相談支援事業・一般相談支援事業）
TEL.06-6308-7209 FAX.06-6308-7220
e-mail cocolo@kashima-yuai.or.jp

❷ル・プラス（就労継続支援事業 A 型）

〒561-0843 大阪府豊中市上津島 1 丁目 4-3
TEL.06-6151-3701 FAX.06-6151-3810
e-mail re.plus@kashima-yuai.or.jp

❸加寿苑　特別養護老人ホーム

●特別養護老人ホーム●ショートステイ●診療所
●デイサービスセンター
〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 34-8
TEL.06-6305-0711 FAX.06-6305-0773
e-mail kajuen@kashima-yuai.or.jp

ケアプランセンター　加寿苑
TEL.06-7651-1600 FAX.06-6305-0773
e-mail kajuen-kyotaku@kashima-yuai.or.jp

ホームヘルプセンター　加寿苑（高齢部門）
TEL.06-6306-6205 FAX.06-6305-0773

淀川区西部地域包括支援センター
TEL.06-6305-0737 FAX.06-6305-0738
e-mail yodogawa-seibu@kashima-yuai.or.jp

❹アンダンテ加島（施設入所支援・生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 36-46
TEL.06-4806-6780 FAX.06-4806-6781
e-mail andante@kashima-yuai.or.jp

❺加島希望の家（生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 49-21
TEL.06-6390-5666 FAX.06-6302-2551
e-mail kibou@kashima-yuai.or.jp

❻リュミエール加島　介護付有料老人ホーム

〒532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-35
TEL.06-6308-7788 FAX.06-6308-7799
0120-087-322
e-mail lumiere@kashima-yuai.or.jp

リュミエールミント　機能訓練特化型デイサービス
TEL.06-6308-7797 FAX.06-6308-7799
e-mail lumieremint@kashima-yuai.or.jp

体験利用
受付中

❼ヘルパーステーション　トレフル（障害部門）

〒 532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-34
TEL. FAX.06-6476-7185
e-mail trefle@kashima-yuai.or.jp

❽リベルテ加島　介護付有料老人ホーム

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 38-20
TEL.06-6305-5750 FAX.06-6305-5756
0120-991-707
e-mail liberte@kashima-yuai.or.jp

2021 年 6 月
リニューアル
オープン

企画 法人機関誌検討委員会
蓬田高広、西岡剛、酒井夕姫、糸川純枝、
十倉伸二、山下修一、北村智之、辻川千博、
安間ゆか、北川将大、辻本由実、内田信也
編集協力 新島洋
デザイン 桐田博子
印刷（財）浪速振興会